



列をなす掘り込み(柱穴?): 12トレンチ

直径80cmほどの丸い掘り込みが数基見つかりました。中には地形と同じ方向で列をなすものもあります。

掘り込み同士が関連するものならば、建物の柱跡になる可能性があります。

明確な遺物は出土していませんが、堆積した土の様子から奈良時代(多胡碑の時代)~平安時代のものである可能性があります。



竪穴住居跡: 12トレンチ

12トレンチ付近は周囲より高い地形になります。ここからは平安時代の竪穴住居跡が見つかりました。

高い地形は東西方向にのびており、9・10トレンチでも竪穴住居跡が見つかりました。



まとめて出土した瓦: 5トレンチ

5トレンチからは、奈良時代の瓦が多数出土しました。従来より岡地区では、この時代の瓦が見つかることが知られています。

5トレンチにおける瓦の出土量は、瓦ぶき建物の存在が想定できる量です。



多胡碑から800年後(戦国時代?)の井戸跡: 4トレンチ

石を丸く組んで、井戸の枠にしています。井戸の掘り方(白線と石組の間)からは、戦国時代の内耳塙(ないじなべ)の破片が出土しました。

岡地区には、かつて堀状のくぼみが残っていました。ここは城の研究者により、池城と名付けられています。この井戸も池城に関連するものでしょうか?



調査で見つかった遺物

岡地区では多数の瓦が見つかりました。瓦は文様や作り方からいつ頃作られたかわかります。今回出土した瓦は多胡碑と同じ時代（奈良時代：今から約1300年前）のものでした。この時代の瓦は布目がつくことが特徴です。

平成25年3月17日(日)

多胡碑周辺遺跡 第2次調査(平成24年度)

現地説明会

現在、高崎市教育委員会では、吉井町池地内において、多胡碑に関連のある遺跡の発掘調査を行っています。この発掘調査は、以前から多胡碑の周辺に推定されている古代多胡郡の役所（郡衙：ぐんが）および関連遺跡の場所を明らかにすることが目的です。

2年目にあたる今回の調査は、多胡碑から西へ約100mの場所（多胡碑西地区と呼んでいます。）と、多胡碑から真南の一段高い段丘（岡地区とよんでいます。）の2か所を調査しました。



高崎市教育委員会



のきまるかわら ふくべんろくべんれんげもん
軒丸瓦（複弁六弁蓮華文）（奈良時代）

屋根の軒先をかざった瓦です。ハスの花をかたどっています。上野国分寺でも同じ文様の瓦が出土しています。



のきひらがわら じゅうけんもん
軒平瓦（重圏文）（奈良時代）

屋根の軒先をかざった瓦です。これも上野国分寺で同じ文様の瓦が出土しています。

おけ 桶の跡が残る瓦

瓦は粘土の板を桶状の型に巻きつけて作られています。巻きつけた粘土を平瓦なら4等分、丸瓦なら2等分して瓦1枚を作り出します。良く見ると布目のほかに桶に使われた木の跡がついています。桶巻作りと呼ばれています。



粘土のひもの跡が残る瓦

粘土の板を張り付ける方法とは別に、土器づくりと同じように粘土のひもを巻きつけて作る方法もとられました。

おけ 桶の型を使わない瓦

桶を使わず瓦一枚単位の型で瓦を作ります。これを一枚作りと呼びます。桶状の型の跡が無く、瓦の湾曲がゆるいのが特徴です。桶巻き作りよりも後出の作り方です。



ないじなべ
戦国時代のナベ（内耳塙）

多胡碑から800年後（戦国時代）のナベです。内側にひもを取り付けるための耳がついているため、この名前がついています。池城で使われたのでしょうか？

多胡碑周辺遺跡 第2次調査(平成24年度) 現地説明会資料

平成25年3月17日

発行 高崎市教育委員会文化財保護課